

第250号

龍源寺報

令和8年（2026年）正月号

派樹樹樹
寺信覺行
心原原原
妙松松松
臨住佛母寺住職
濟宗・正福寺住職
TEL 03-3451-1853
FAX 03-3451-6094

振込 00160-0-104918 東京都港区三田5丁目9-23（郵便番号108-0073）

Email: info@ryugenji.com URL: <http://www.ryugenji.com>

（メールアドレスが復旧しました。）

新年におもひ

龍源寺住職 松原信樹

私が、約二十年前、ネパールのポカラに行つた

とき、神が宿っているため、登つてはいけない山があつた。恐らく、人々がその山を神として崇拜していたのだろう。日本でも、以前は、人間の力を越えた、畏怖すべき神祕な自然への、時に恐ろしいが、時に恵みを与えてくれる、生命力への讃美と感謝の念が宿つていた。現代、日本で暮らしいると、自然は、もはや、なんら神祕をも宿さぬものとなり、畏怖や讃美の感謝の念などなしに、全く機械的に、その仕組みを取り押さえて、これを究明すべき対象物と化す傾向が強くなつてきているようと思う。その結果、自然は、その機械的な予測の知に基づいて、そこから人為的な利便と効率を引き出すべく、思いのままに、その力を搾取し始めている。現代人は、いまや、自分の知力を盲信し、自分を存在の主と思い違えてはいないだろうか。祖父である松原泰道師が、「人間を万物の靈長と考えてはならない」と言つていたことが、頭をよぎる。

今日、AIの発展が凄まじい。AIは、情報を集め、思考を模倣し、言葉を生み、推論を積み重ねるが、寄せ集めの知識にすぎない。そのような知は常に移ろい、モデルは壊れ、また新たに生まれかわる。AIもまた、仏教が説く「無常」の海を漂う一葉の舟なのだろう。

では、人間とAIはどう向き合うべきか。AIを使うときも、AIに問うときも、私たちは結局、自分自身の「心」に問うている。AIがどれほど発達しても、何ものにもどらわれぬ自由な心を持つのは、やはり人間側である。私は、生活の中で、他者との共同性を実現する気遣いなしには、本当の意味での生活を実現できないと思っている。それらは、人間同士の心の交流によるものである。学問、芸術、発見、その個性豊かな活動や諸作品のすべては、AIといった技術的操縦を越えたところで、自然の恵みと人間の全身全霊から成す努力のなかでのみ、結実するのではないだろうか。私は、学生時代、フランクフルト学派を研究されていた清水多吉先生の「学問とは、間違いを間違いといきれることだ」という言葉を今でも大切にしている。

龍源寺では、月に一回、第一土曜日に、坐禅会を行つてゐる。短い時間だが、私はこの時間を大切にしている。皆さまの一年のご多幸を心よりお祈り致します。本年もよろしくお願い申し上げます。

ご 寄 付

大般若会（新年の祈祷会）

金五万円 天野富美子殿

一、一月十日（土曜日）午前十一時
一、法 話

ありがとうございました

・駐車場はありません。

南北線をご利用ください。

※大変貴重なご寄付をありがとうございます。

ました。龍源寺の周囲が再開発される中、

龍源寺を地域の文化資源の一つとして
捉え、先々代から三代続く境内整備に

力を注いで参ります。

ご支援いただける個人・団体・法人の
皆さまに改めてご協力を賜りたくお願
い申し上げます。未熟者ですが、今後
とも宜しくお願ひ申し上げます。

龍源寺住職 松原信樹

龍源寺への交通の便（地下鉄）

●南北線。白金高輪駅下車。徒歩五分。

2番出口から地上に出ると案内看板に「龍源寺」名あり。

〈都バス〉

●田87 渋谷駅—田町駅 魚籃坂下下車

●都06 渋谷駅—新橋駅 古川橋下車

●品97 品川駅—新宿駅西口 魚籃坂下・古川橋下車

●反96 五反田駅—品川駅—六本木ヒルズ（循環）
魚籃坂下・古川橋下車

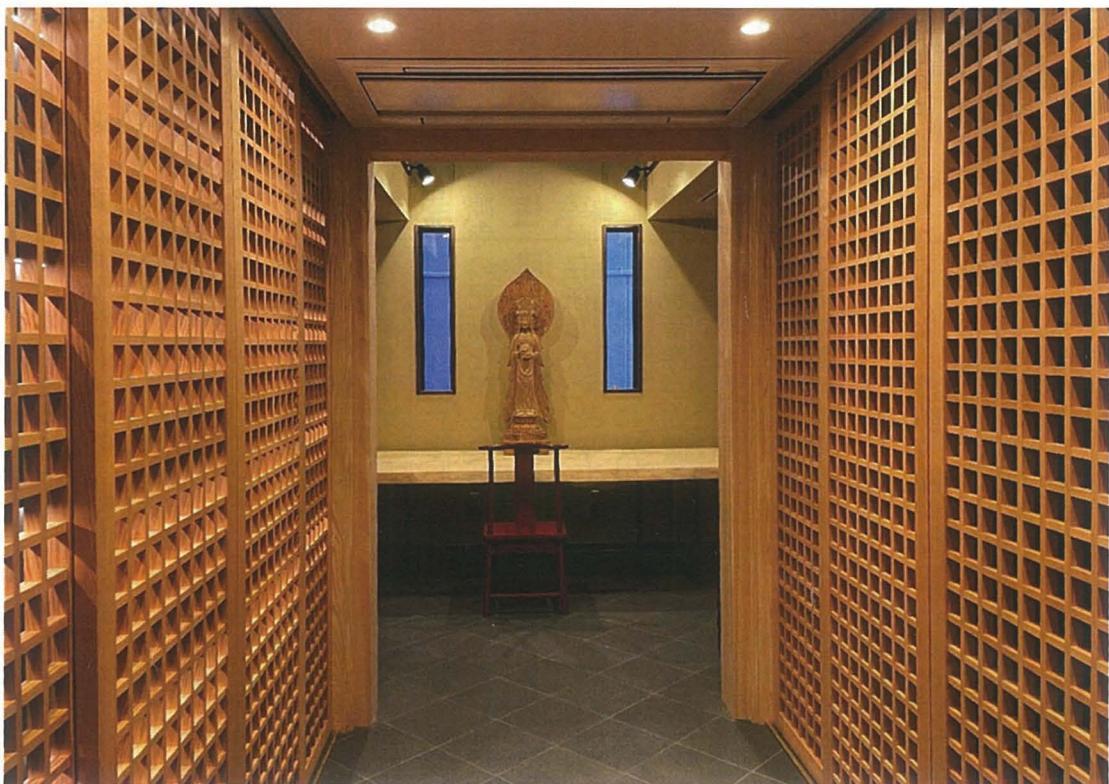
〈東急バス〉

●東98 東京駅南口—等々力操車場 魚籃坂下下車

ぎょらん

ぎょらん

ぎょらん



水月堂

一つの月が、あらゆる水に映ります。
水の深さや形はそれぞれ違っても、月の光は、平等に届けます。
水月堂は、亡き人を想う場所であると同時に、
ご先祖からのいのちのつながりと、
みずからのいのちの尊さに気づく場所です。
亡き人の存在は、今を生きる私たちの心にも映り、
静かにこの瞬間を照らしています。
このお堂を訪れるすべての方が、
いのちの尊さに気づき
感謝とともにいまを生きることができますように。

龍源寺住職 松原信樹



Instagram を始めました。アカウントは ryugenji.zen です。

明けまして、おめでとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます。納骨花 紅堂に関しまして、令和七年十一月十九日に、建築の最後の検査を終えました。おかげさまで、計画から約五年の歳月を経て完成致しました。関係者の皆さま、本当にありがとうございました。がどうございました。納骨堂である水月堂の名前の由来は、「書上げ」という、江戸時代の龍源寺の記録を読んでいたら、実際に、龍源寺の境内に、水月堂というお堂が存在したことによります。恐らく、現在、観音堂に安置されている水月如意輪観音像が安置されていたのでしょう。総代の豊前屋さまから寄贈された合祀墓である宝篋印塔の正面には、水月如意輪観音を意味する梵字が刻まれています。また、歴代住職のお墓を移すことは、長年の私の思いでもありました。季節ごとに境内に咲いている花を供え、お墓の掃除をし、お参りをするという新たな日常ができました。同時に、そこは、私たち

寺族が入る墓所でもあります。水月堂のお受け入れに関しまして、私自身もお墓の改葬を体験しましたので、皆さまのお力になれると思います。ご希望の方は、お電話をお願い致します。今後の龍源寺の計画としまして、借地の整備を行い、『大蔵經』という經典を収める経蔵の建立と、蔵書の整理を行つてまいります。禪宗は、文字や言葉に頼らず、直接的な体験を通じて悟りを得るという意味で、「不立文字」といわれますが、書籍の量は大変多いのが現状です。祖師方は、それだけ、言葉にこだわったのです。また、昨今のA.Iの浸透により、坐禪を通じた現代人の心の開発を積極的に行つていただきたいと思います。つまり、禪という中国唐代の古典を現代の価値観にあわせ、今の言葉で再生をしていきたいと思います。また、夏には、北軽井沢・日月庵坐禪堂での子供たちの坐禪会なども再び手掛けていきたいと思っています。大変大切なことだとも思っています。大変母は膝が悪いながらも元気に毎日を過

ごしています。先日、境内で転倒してしまいましたが、問題はなかったようです。大変なことです。毎日の筋力トレーニングが必要のようです。また、家内が仕事で留守の時は、娘の瑞樹のお弁当や洗濯をしてくれます。年末年始は、家内が仕事で留守の可能性もありますが、全員で仕事を分担していく必要がありますが、全員で仕事を分担していくたいと思います。家内の亜矢さんは、お寺の仕事と会社の仕事を両立していますが、書籍の量は大変多いのが現状です。お寺の仕事と会社の仕事を両立してく元気に学校へ通っています。早寝早起きを実践し、生活のリズムを作っています。食べ物で好き嫌いが無いことは、大変ありがたいことです。今、境内のお掃除をお願いしている方は、娘の学校で外のお掃除をしてくださっていることに縁を感じます。▼本堂へのエレベーターが、地盤沈下のため、段差ができてしましました。エレベーターの乗り降りに、気をつけてください。令和八年の新年会は、令和八年一月十日午前十一時より行います。ご家族でお参りください。